

2020年8月4日発送 7名 (2019年3月修了生)

2020年9月11日締切

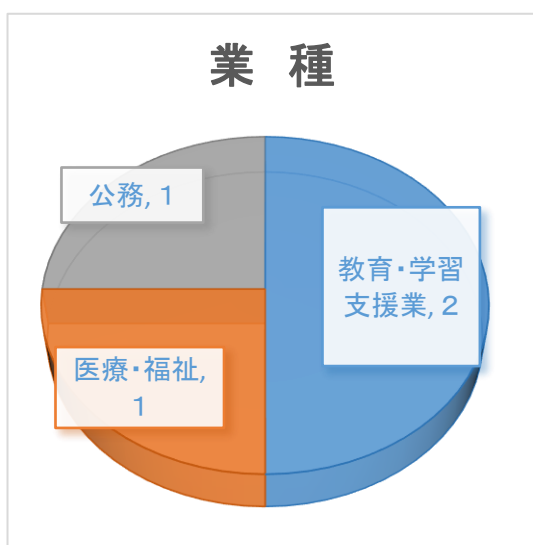
(人数)

	発送数	宛先不明	回答数	男性	女性	回答率
専攻	7	0	5	0	5	71.4%
計	7	0	5	0	5	71.4%

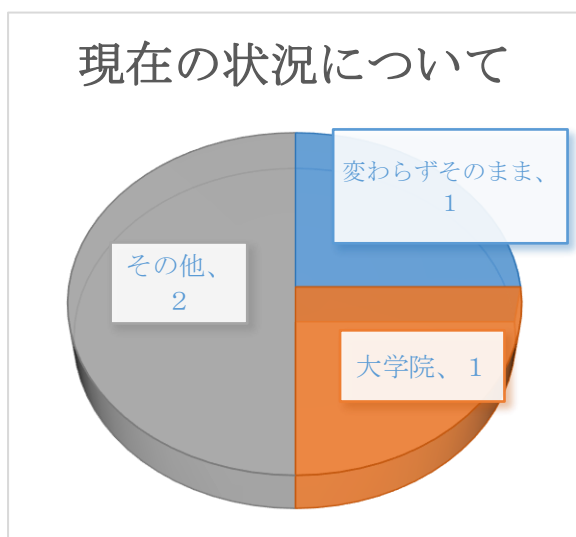
有効配達7先に対し回答件数5件 回答率71.4%

Q2-① 勤務先、進学先

Q2-② 雇用形態



Q2-③ 退職、転職等



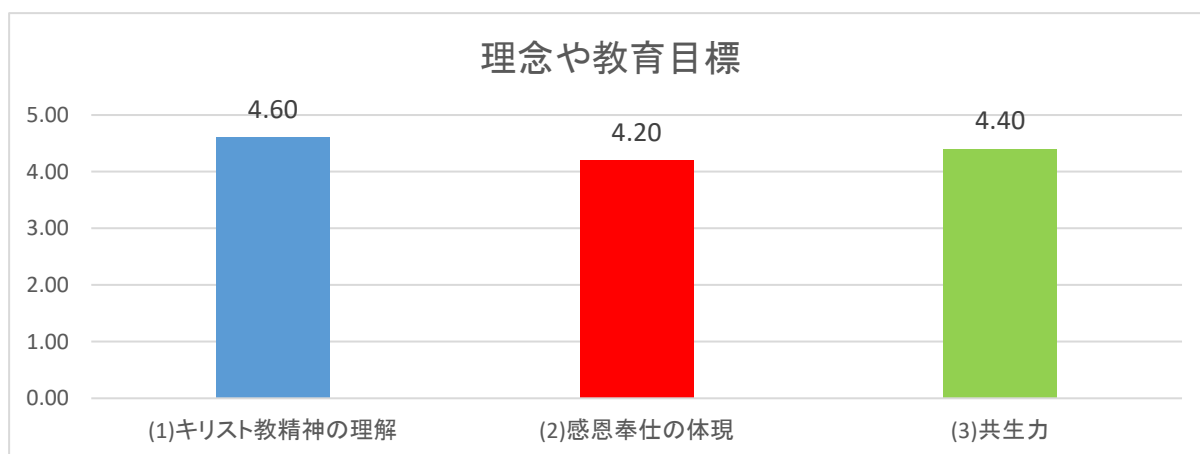
- ①1名：退職していない (20.0%)
  - ②1名：退職した (現在大学院) (20.0%)
  - ③2名：不明 (40.0%)
- 合計4名
- \*退職した修了生1名
  - \*退職した理由  
大学院で学ぶため。

### Q3 在籍時の学習成果がどのくらい身につけているか

- 5 身に付いている                      4 概ね身に付いている                      3 少しは身に付いている  
2 あまり身に付いていない                      1 身に付いていない

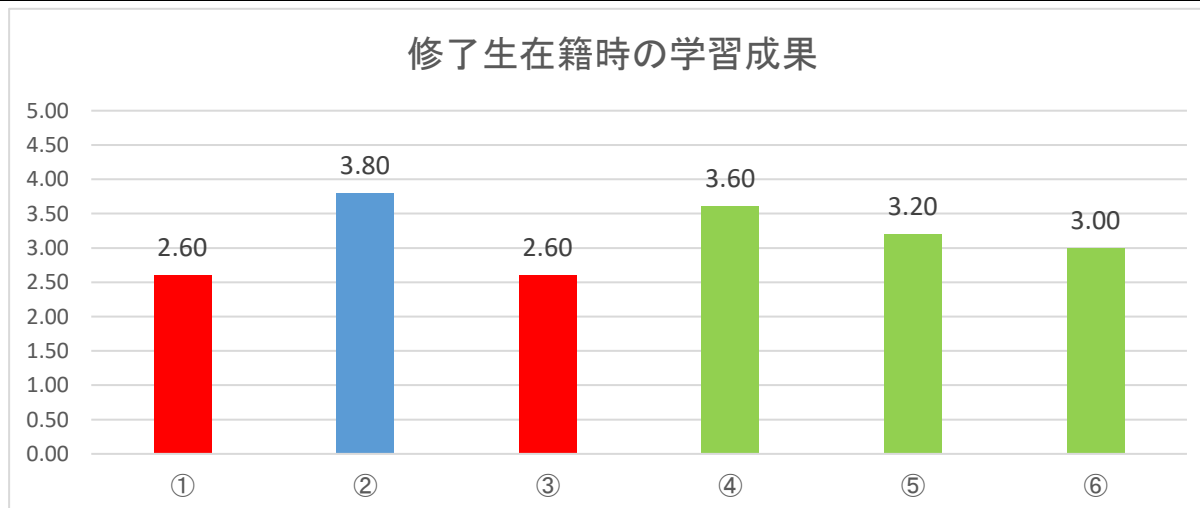
①本学の理念や教育目標について（全員記入のこと）

	項目	内容	平均回答
(1)	キリスト教精神の理解	キリスト教精神やそれに基づく感恩奉仕の精神を理解している	4.60
(2)	感恩奉仕の体現	ボランティア精神と倫理観を持ち、社会で自分の役割を果たしている	4.20
(3)	共生力	社会の動向に関心を持ち、また異なる文化や他者を理解し、その社会・文化の中で他者とともに協同することができる	4.40



②修了生への質問（回答5名）（赤字；下位点数、青字；上位点数）

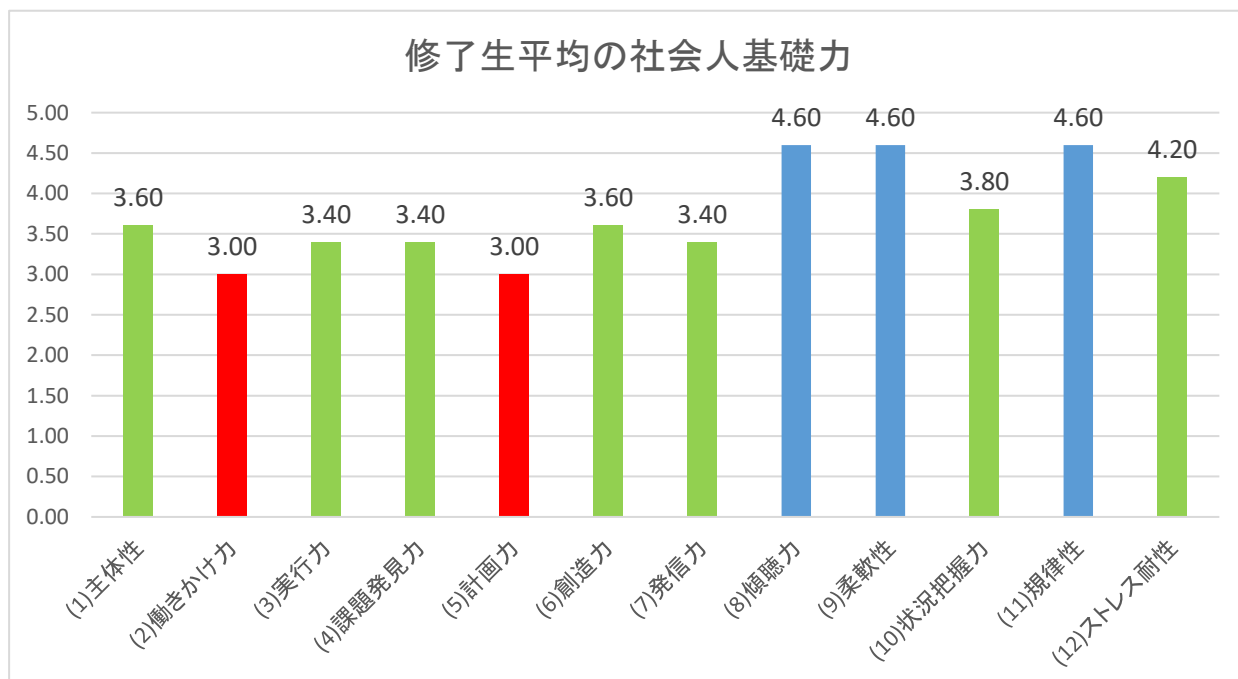
(1)	発達障害のリスクのある乳幼児の心理査定、就学前までの支援ができる能力	2.60
(2)	発達障害のある（あるいは疑いのある）幼児・児童・生徒の特別支援教育ができる能力	3.80
(3)	発達障害のある生徒の移行支援・就労支援ができる能力	2.60
(4)	学校現場で起きる不登校、いじめ、非行や神経症などの様々な問題に適切に対応するとともに、こうした問題の予防教育ができる能力	3.60
(5)	医療や福祉などの現場において、様々な情緒的問題を抱える人たちへの心理的支援ができる能力	3.20
(6)	学校をはじめとする障害者を包含する社会において、意識調査や啓発活動等ができる能力	3.00



## Q4-1 社会人基礎力を現在どの程度身に付けているか

(赤字；下位点数、青字；上位点数)

12の能力	内容	平均
(1) 主体性	物事に進んで取り込む力	3.60
(2) 働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	3.00
(3) 実行力	目的を設定して確実に行動する力	3.40
(4) 課題発見力	現状を分析し目的や課題を見出す力	3.40
(5) 計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにする力	3.00
(6) 創造力	新しい価値を生み出す力	3.60
(7) 発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	3.40
(8) 傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	4.60
(9) 柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	4.60
(10) 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	3.80
(11) 規律性	社会のルールや人との約束を守る力	4.60
(12) ストレス耐性	ストレスの発生源に対応する力	4.20

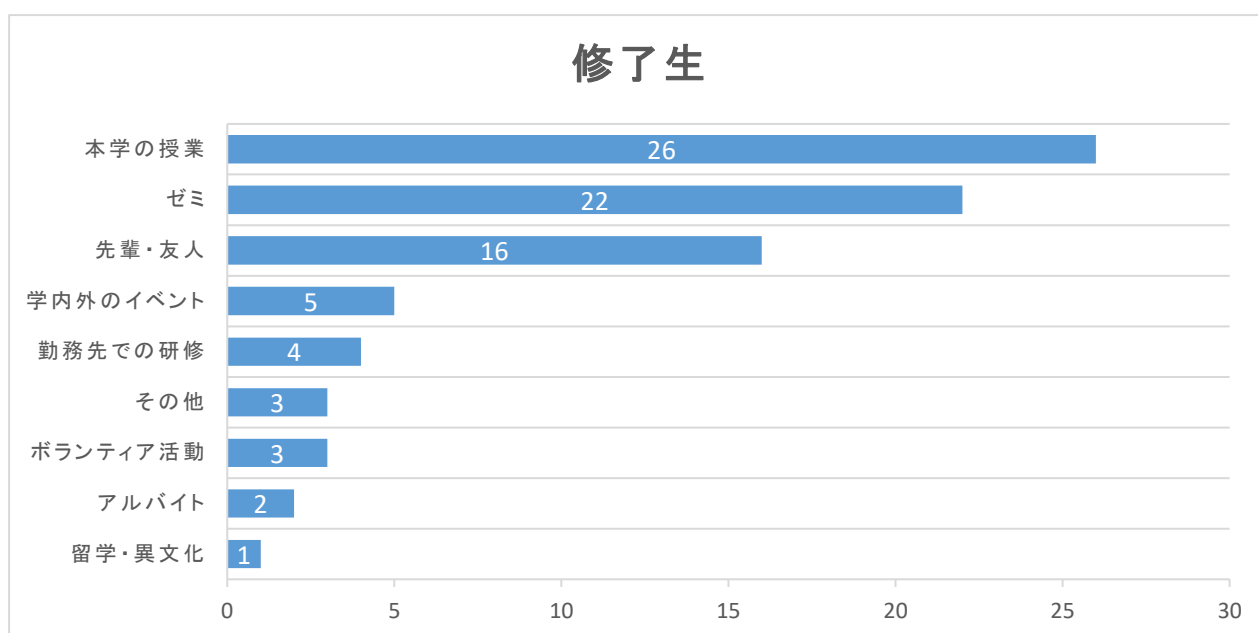


## Q4-2 社会人基礎力を身に付けるのに何が役に立ったのか

- 1 本学の授業    2 ゼミ    3 インターンシップ    4 留学・異文化    5 ボランティア活動  
 6 サークル活動    7 アルバイト    8 先輩・友人    9 自治会    10 独学・専門学校  
 11 学内外のイベント    12 勤務先での研修    13 その他

(複数回答可) 上位3項目のみ左から記載

	1位	2位	3位
(1) 主体性	1	8、11	2、12
(2) 働きかけ力	1、2、8	12	
(3) 実行力	2	8	1、11、12
(4) 課題発見力	1、2	5、7、8、12	
(5) 計画力	1、2	8、11、12	
(6) 創造力	1	2	4、8
(7) 発信力	1	2、7、8、12	
(8) 傾聴力	1	2	
(9) 柔軟性	1	2	5、8、12、13
(10) 状況把握力	1	2、8	5、8、12
(11) 規律性	1、12	2、8、11、13	
(12) ストレス耐性	1、2	8、12、13	



#### Q4-3 実社会で必要と思われる社会人基礎力を5つ書いてください

順位	項目
1	傾聴力
2	主体性、実行力、課題発見力、ストレス耐性
3	計画力、発信力、規律性
4	柔軟性

#### Q4-4 社会人基礎力以外で、大学時代に身に付けておけば良かったことや、在学生に身に付けて欲しい能力や資質をあげてください

- ・ 仕事をする上で技術や知識も必要ですが、雑談力や人に助けを求める力も大切だと感じます。大学院時代に身につけておきたかったものとして、実践である程度使えるくらい心理検査が（WISCだけでも）できるようになっていると助かると思います。
- ・ 論文をもっとたくさん読んでおけば良かったと思う。現場でよく使う検査をもっと勉強しておけば良かったと思う。
- ・ 社会人として大学院で学ばせてもらい、学ぶことはもちろんのことですが、生き方、物事の捉え方、対人関係等も多面的に考えさせられる場でもありました。

#### Q5 仕事をする上での悩み、課題やそれを誰に相談していますか

- ・ 現在中学校の心の教室相談員をしています。仕事上の課題は、同じ職場の校長、教頭、担任教諭、スクールカウンセラー、養護教諭と連携しながら行っている。
- ・ 現在学習指導員を学校でしていますが、指示と支持をうまく融合していくことに難しさを感じています。今後、スーパービジョンなども念頭におきながら自己研鑽に励んでいきたいと思っています。相談は主に院生の仲間をしています。
- ・ 援助職にはその方法やその後の自分の心情に迷いや複雑な感情が出てくるが多々あります。その時は自分とは全く違う仕事をしている家族や同職の方、大学院時代の友人に相談している。
- ・ 職場の中で随時ケース会議を行ったり、療育活動の報告をするなど、スタッフ間の風通しを常によくしています。（上司も含め）

## Q6 大学時代に有意義だったと思う授業はありましたか

- ・障害心理査定特論、社会心理学特論、障害者臨床教育学特論、発達臨床心理学特論、教育心理学特論など様々な授業が心に残っています。
- ・どの授業を振り返っても大変有意義なもので楽しい授業でしたが、マインドフルネスの授業においては、自分自身のストレスコーピングとして助かりました。それから少しの時間ではありましたが、障がいを持つ子のお母様方と実際に関わらせていただいた授業は、大変大きなたくさんの学びがありました。
- ・論文作成はとても有意義でした。論文的な思考が日常生活、仕事にとっても役立っています。先生からの様々なヒントは、職場や日常の生活でいただけるものではないと今さらながら感じています。
- ・修士論文：研究の進め方、分析の仕方、論文の書き方等、細かくご指導していただき、大変有意義でした。
- ・大森先生の授業です。私の事に関係する電子機器や視線入力に関する授業だったからです。

## Q7 本学全般にわたってのご意見はありませんか

- ・プレゼンテーションをする授業も多く、振り返るととても良い経験だったと感じます。社会に出ても役立つと思います。障がいを持った子ども達や保護者と実践的に関わり、失敗や達成感（手ごたえ）を目のあたりにすることで学ぶ意欲にもつながると思います。そんな中で自分なりの疑問や課題にぶつかり思考の幅も広がっていくと思いますので、是非可能であればそのような機会を作ってほしいと思います。
- ・建学精神「感恩奉仕」は、今後も卒業生、在学生の心に刻まれていくことを願っています。

\* 修了生アンケートに対する所感

在籍時の学習成果がどのくらい身に付いて生かされているかについては、キリスト教精神の理解、感恩奉仕の体現、共生力については平均回答が4以上と良好な結果であると思います。研究科の教育、本学が持っている伝統などがこうした評価に結びついているのではないかと考えられます。

研究科の理念や教育目標については、(2) 発達障害のある幼児・児童・生徒の特別支援教育ができる能力や(4) 学校現場で起きる不登校、いじめ、非行や精神症などの様々な問題に適切に対処するとともに、こうした問題が予防教育ができる能力については、評価が3以上とまずまずです。しかしながら、(1) 発達障害のリスクのある乳幼児の心理査定、就学前までの支援ができる能力、(3) 発達障害のある生徒の移行支援・就労支援ができる能力については評価が2.6と、やや低めで今後の大学院教育の課題であると考えられます。

社会人基礎力については、(8) 傾聴力、(9) 柔軟性、(11) 規律性については評価が高く、また(12) ストレス耐性がそれに次ぐ評価の高さです。さらにこれらを身に付けるのに何が役立ったかについては、これら全てについて本学の授業があげられており、本研究科の教育が貢献していると考えられます。(2) 働きかけ力、(5) 計画力については、やや評価が低めであった。今後の大学院教育、現行の大学院教育はもちろん、特に公認心理師教育では多職種協同が重要であり、チーム医療、チーム学校に貢献するためには、多職種への働きかけ力も重要になると考えられ、働きかけ力の教育は今後の課題であると考えられます。

社会人基礎力については、今後、他大学院や社会人のデータとの比較可能性のある標準化された心理尺度を使用して調査すれば、大学院修了者の社会人基礎力が一般社会人と比較して高いのか低いのか、他大学院と比較して高いのか低いのかなどの比較が将来的に可能になり、より多くの情報を得ることができると考えられました。